

# 中学生連載企画 私たちのふるさと松山学 No.22 桑原中学校

桑原のシンボル「淡路ヶ峠」



久保 一路さん (1年)



「淡路ヶ峠」展望台から望む風景

淡路ヶ峠は、桑原中学校のすぐ東にある、標高273層の峠です。桑原中学校の校歌にも「みどりの山脈美しく淡路ヶ峠に抱かれて」と歌われています。

400年ほど前、ここには、道後湯築城のとりでがあり、林淡路守通起という人が守りについていて、後世の人がその名前をとって「淡路ヶ峠」と呼ぶようになったそうです。

また、林淡路守通起の子孫にあたるのが、初代総理大臣の伊藤博文です。1909年、伊藤博文は、道後温泉に来たときに桑原の方を指さし、「来年、再び来て、祖先の供養をしたい」と言ったそうですが、その年に亡くなってしまいました。



桑原八幡神社参拝の様子

現在、桑原の人々が「淡路ヶ峠遊歩道整備管理協議会」を作り、登山道の整備・管理を行っています。私たちも、リーダー研修会やボランティア活動の際にお手伝いをしています。

桑原八幡神社は、桑原の東側にあります。昔、桑原は稲作が盛んで、田んぼの多い地域だったそうです。そのため、人々は豊作を願い、実りや日々の営みに感謝し、神社で神様と密接に関わりながら生活をしていました。それは今でも続いています。秋祭りの時には、桑原全ての大人みこしや子どもみこし、さらに周辺地域のみこしがたくさん集まります。



相原 未紀さん (1年)

1000年以上前から桑原を見守る桑原八幡神社



早田 萌希さん (1年)

吟詠日本一 伊賀上郁夫さん

桑原八幡神社は、すでに古墳時代には桑原にあったといわれ、1000年以上も昔から桑原の発展とそこに住む人々を見守っています。



吟詠について話す伊賀上さん

伊賀上郁夫さんは、声帯ポリプと肺がんに打ち克ち、吟詠の全国大会で日本一になった人です。吟詠とは日本人の心を歌う、詩に節をつけて歌う邦楽の一つです。明治時代初期、一部の私塾や藩校で漢詩を素読する際に独特の節をつけて読まれたのが今日の吟詠の直接のルーツだそうです。

桑原八幡神社は、すでに古墳時代には桑原にあったといわれ、1000年以上も昔から桑原の発展とそこに住む人々を見守っています。

私たちは総合的な学習の時間に、地域の名所などを巡りながら地域の人たちと触れ合う「くわばら発見！〜人・物・風景〜」を行いました。

## 歴史と伝統が生き、自然と共存するまち 桑原

### 未来の桑原を守るために



地域の人も桑原八幡神社が大昔からあることを知らない人も多いと思うので、身近なところでもこんなに歴史が詰まっていることをみんなに伝えていきたいです。(相原)

伊賀上さんの努力する姿を見て、私も勉強などで努力すればその分自分に返ってくると思うので、努力することを大事にしていきたいです。(早田)

淡路ヶ峠は桑原の看板的存在でみんなに愛されています。自然と人間の共存がとても重要だと思うので、それを私たちがこれから守ってきたいです。(久保)

**先人と文化の読み物教材**

「語り継ぎたいふるさと松山 百話 I・II・III」

松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10~14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることができます。

くわばら発見! ~ 人物 風景 ~

病に打ち克ち 吟詠日本一! 伊賀上 郁夫さん

- 県予選で4年連続優勝し、全日本全国吟詠コンクール決勝4度目の挑戦で日本一!
- 病に打ち克ち、再度チャレンジ!
- 小学生が作った俳句を吟詠に変身させることができる!?

「吟詠とは日本人の心を歌う、詩に節をつけて歌う邦楽の一つです。明治時代初期、一部の私塾や藩校で漢詩を素読する際に独特の節をつけて読まれたのが今日の吟詠の直接のルーツだそうです。」

「くわばら発見!」と語っていました。歴史や伝統を受け継いでいくために努力すること、努力した分の思いを次の世代へつなぐことができると感じました。